

日本労働年鑑 第57集 1987年版
The Labour Year Book of Japan 1987

第五部 労働・社会政策

III 社会保障

4 昭和六〇年版および六一年版厚生白書

昭和六〇年版

八五年一月一九日、閣議に配付された「昭和五九年度厚生行政年次報告書」(『昭和六〇年版厚生白書』)は、「長寿社会に向かって選択する」を副題とし、第一編においては、第一章長寿社会における社会保障、第二章保健・医療・福祉サービスの展開、第三章家計と所得保障の三章から構成されている。保健、医療および福祉の各分野を一つの章において構成しようとしたところに新味が見られた。

昭和六一年版

八七年一月九日、閣議に配付された『昭和六一年版厚生白書』(今回からこのような呼称に統一された)は、「未知への挑戦／明るい長寿社会をめざして」を副題としている。年次報告に相当する第一編の構成は、以下のとおりである。

- 第1章 社会保障制度の再構築に向けて
- 第2章 社会サービスの新たな展開
- 第3章 科学技術と厚生行政
- 第4章 安定的な医療保障システムをめざして
- 第5章 ゆるぎない所得保障システムの確立
- 第6章 積極的な国際的貢献への展望

厚生白書は、昭和五七年版の白書以来それまでの特集方式を改め、各分野の詳細の叙述は図表を利用して後半部分にまとめるという方式をとってきた。その主たる内容もこの五年間は一貫して高齢化社会への対応を説くものであった。今回の白書においては、この五年間における厚生行政のとりくみの総括および前記の「高齢者対策企画本部報告」において示された政策の方向について整理している。「昭和五〇年代の後半以降…実施してきた(制度の改革は)…将来の超高齢化社会を見据えた社会保障制度再構築のための第一次改革と位置づけられる」(三四ページ)として、長期的な展望のなかにおいて改革が実施されてきたこと、さらに、今後の施策の方向もこのような文脈において継続されるべきことを述べている。第一章においては、「健康」、「年齢」、「就業」、「高齢者像」などといった基礎概念について新しい角度から再検討する必要性を説き(二六ページ以下)、第二章においては、「社会サービス」という概念を新たに提示しており、新しい事態に対応する新しい概念についての模索をおこなっている。

科学技術と厚生行政の関係、社会保障政策の部門におけるわが国の役割について、それぞれ一章をおこして現状の分析と問題の整理をおこなっているが、最近における社会保障政策の新しい動向を反映しており興味深い(本年鑑、一九八六年版参照)。

■←前のページ 日本労働年鑑 1987年版(第57集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
